

## 白馬駅前の無電柱化で北アルプスが世界に誇れる景観に！

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事 兼 事務局長 井上 利一



「長野県白馬村は、JR 白馬駅から真っ直ぐに延びる県道約 350mと JR 大系線と並行する国道約 480mを対象に無電柱化する方針を明らかにした。無電柱化は 2019 年度中に電線埋設の設計を終え、2024 年頃までの工事完了を目指している。総事業費は 14 億円になる見込みだ」（『日経新聞電子版』6/20 より）

白馬村は、1998 年の長野オリンピック後に国内の観光客が減少。一方で、海外の観光客が増加している。JAPOW（ジャパウ）と呼ばれる日本独特の極上のパウダースノーと、山岳景観を求めて年間 10 万人以上のインバウンドが訪れている。しかも、この地を気に入って移住する外国人も増え、今では白馬村の人口 9,000 人中 500 人が移住者という。

白馬村とのご縁は 2012 年に遡る。当 NPO 発行の『電柱のないまちづくり』（学芸出版社）を読んだ「白馬駅前の無電柱化を考える会」の松沢斉氏より、相談に乗って欲しいという依頼を受けた。その後 2012 年 6 月、同会主催の無電柱化勉強会に講師として招かれた。当日は多くの村民や行政関係者が集った。その当時から、村民の無電柱化にかける思いはたいへん熱いものがあった。その 2 年後、今度は当 NPO 主催のまちづくりフォーラム（右の写真参照）で松沢氏に小池百合子東京都知事と共にパネリストとして登壇していただいた。この時も松沢氏の「無電柱化にかける思い」は全く衰えるどころか、益々燃える思いを聴衆に訴えた。

2017 年に白馬駅前整備検討委員会(全 6 回)、10 月に倉本聰氏をゲストに招いてシンポジウムを行い、村民の景観意識向上を進めた。



松沢 斉氏

こうした熱心な村民の活動を受けて、長野県知事や白馬村村長も無電柱化へ向けた動きを加速させることとなる。その甲斐もあり、長野県景観条例の流れから、白馬村景観条例ができ、2018年の景観むらづくり100年白馬ワークショップ（全3回）を経て、村民念願の白馬村無電柱化推進条例が6月に議

会に提出された。無電柱化に伴う街並整備事業計画も整えられ、完成後のランドデザイン（下記図）も公表されている。このような経緯を受けての今回の報道である。嬉しさも一入だ。

昨年12月、11月10日の無電柱化の日に合わせて発行した当NPO編著の『見あげたい日本の空☆復活へのシナリオ 無電柱化の時代へ』発刊記念トークイベントに松沢氏をパネリストで招聘した。その席で、松沢氏は「白馬村は、世界の山岳リゾートと比較すると、山々や周りの自然は遜色ないにも関わらず、麓に降りての街並みをみると大敗です」と、自虐的に語ったが、その表情には、無電柱化実現への自信も滲ませた。それは、無電柱化推進条例の成立といったことだけでなく、長年の活動の成果が「白馬村ランドデザイン」（下記パース参照）という形でまさに結実を目前に控えていることにもあるのであろう。

白馬村は間違いなく、日本有数のスキーリゾートであり、その住民の熱い思いは、電柱をも引っこ抜くパワーがあると、実感した次第である。白馬駅周辺の無電柱化によって、本家ヨーロッパの景観に勝るとも劣らない日がまもなく訪れることを期待し、今後も応援していきたい。



白馬村のランドデザイン（夏バージョン）